

令和6年度 第2回佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会 議事録

1 会議概要

日時	令和7年2月4日(火) 15:00~16:20
場所	佐久市市民創錬センター 大会議室
出席者	<p>【佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会委員7名】 会長：植松貞夫、副会長：豊田高広（オンライン参加）、朝倉久美、小木田順子、森いづみ、森田秀之、柳澤拓道</p> <p>【事務局11名】 吉岡教育長、工藤社会教育部長、篠原館長、比田井事務長、平川係長、高瀬専門員、金井専門員、松井主査、布施主査、中村主事、浅沼主事</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・資料1 佐久市立中央図書館建替再整備基本構想（素案）に対する意見募集の実施結果 ・資料2-1 佐久市立中央図書館建替再整備基本構想（案）【概要版】 ・資料2-2 佐久市立中央図書館建替再整備基本構想（案）
委員	<p style="text-align: right;">（進行：事務長）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 教育長あいさつ 4 会議事項 <ul style="list-style-type: none"> （1）佐久市立中央図書館建替再整備基本構想（素案）に対する意見募集の実施結果について （2）佐久市立中央図書館建替再整備基本構想（案）の策定について （3）その他 5 閉会 <p>【質疑、意見】</p> <p>資料No.1、20ページのパブリックコメント、建設場所に関する回答については、佐久平駅、中込駅、岩村田駅を希望する意見など多くの意見が出されていますが、その点を比較検討した軌跡がなく、自然豊かな駒場公園内に建設されることが望ましいと言い切っています。私も市民の方や移住した方などいろいろな意見を聞いていますが、どういう経緯で駒場公園なのかを丁寧に説明するべきだと思います。そこで、基本構想案の25ページには、割と詳しく起債</p>

の話などを含めて、なぜ駒場公園で複合化を前提として計画しているのか丁寧に書いてあるので、この辺をもう少し市民に分かりやすく、かみ砕いて説明してほしい。私自身、なぜこの起債が関係してここが望ましいのかを理解し尽くしていないのですが、ということは、おそらく、市民の皆さんも分からないと思うので、財源的な話があるのであれば、そこも含めた回答をしていただいた方が納得できるのではないかと思います。

もう一点、建設場所に関連して、佐久平駅とか中込駅がいいというご意見は、交通の問題です。やはり子どもや運転できない人がどういう手段で図書館に行くかを考えると駅の近くがいいという意見になる。そこに対する誠実な回答、きちんと検討する姿勢を示すべきだと思いました。資料No.1パブリックコメントの22ページに3つの意見でまとめられていますが、先程の建設場所に関する意見もほぼ交通に関する話がされていますので、それに関して10件ほどの意見が出ています。そこに対して23ページのところで、「大変難しい問題であると考えております」という表現だけで良いのかと思います。市民の方が問題提起をしていることに対して、どうするのかを考えるのがこの場でありますので、今後の計画を策定していく上で大変重要なポイントだと思います。建設場所については説明の仕方、交通手段の部分はとても大事なテーマとして考えていることをお伝えすべきだと思いますのでご検討いただければと思います。

事務局

建設場所については、8月の議会全員協議会で説明をさせていただいた内容を集約したものを記載しております。一番は財源の問題がありまして、今、公共施設等適正管理推進事業債の活用を前提としていることから駒場公園の佐久創造館を取り壊し後の跡地に、創造館機能の一部と図書館機能を複合させた施設を建設することについて検討していくということで、市として方針を出しているところです。駅前のご意見もたくさんいただいておりますが、一番はその財源の確保という点で駒場公園内を第一に検討していくとの説明をしています。こちらの起債の延長について決定するのが令和8年12月の見込みとなっております。もしこの起債が延長されないということになりますと、また一から建設場所については検討していくようになります。こちらの回答にはそのことは記載していませんので、加えていくかどうかまた検討したいと思いますが、あくまで検討を始めたということでご理解をお願いしたいと思います。駅前が全く候補ではないということではなく、検討を始めたということでお願います。交通に関しましても大変難しい問題であると簡単に記載しているような感じに受け取られていると思いますが、市全体の交通に関しましては、違う部署の方で担当していることもあり、そちらの計画等もございまして、今後、可能性について、市全体の中で検討していく形になると思いますので、申し訳ありませんが、このような形での回答とさせていただきたいと思います。

委員

先ほどのお話の流れで、ご説明いただいたところに関わりますが、市全体の交通網の話はそれを専門に考える部署があると思います。図書館に限らず市民の方の文化的で健康が維持される幸せな生活を考え、全体として考えたときの構想の中で、せつかく図書館が新しくなることをきっかけに、検討が進むと嬉しいと思いました。記載について問題がなければ、こちらのお立場で書ける範囲で「市全体の最適な交通網の整備について、関連する部署と連携して検討します」と言うようなことを明記していただけると良いのではないかと思います。

また、「中央図書館に行かなくても十分なサービスが自分の身近なところでも提供してもらえる」と理解してもらうことが大切だと思います。それがないと、どの場所を選定しても、どこまで行ってもそれぞれの方が住んでいる場所や環境によって「あそこの場所は嫌だ」という反対が生じると思います。

「どこに住んでいても」という観点では、資料No.2-2基本構想の24ページ、基本方針4に全域サービスというキーワードがあります。地域館を含めて、いろいろなところと連携してサービスが行き届くような工夫をこれまでもされてきたと思うので、そのことをもう少し具体的に書き加えていただいても良いのではないのでしょうか。基本構想の中に地域館についての記述があまり見られなかったように思いますので、今回は中央図書館の建て替えだけでも、「中央図書館の機能をさらに充実させるとともに地域館等とのネットワークをより強くして行き届くものにします。中央図書館ならではの役割とそのネットワーク化によって、必ずしも来館しなくても十分なサービスが得られます。」そのような記述があると、建築場所の問題に少し発展的な考え方なども出てくるのではないかと思います。

また、今回のパブリックコメント全体を拝見して佐久市民の皆様の民度の高さに感動しました。いろいろな観点からのご意見があり、県立図書館についてこんなにたくさん言及していただいたのは初めてで、大変嬉しかったです。例えば、パブリックコメントの6ページに信州デジタルコモンズとの連携、デジタルアーカイブは県がやっているものと連携したら良い、7ページの一番下、県立図書館のラボとの連携で空間機能を連携したらどうか、それから13ページ、古い資料の保管は県立図書館や歴史館への移管など、佐久市外の県のリソースを活用して市の図書館機能がうまくいくような視点をたくさん持っておられることをありがたいと思いました。12ページには、「県立図書館は機能していないので、佐久市内でしっかりやってください。」との厳しいご意見もいただいているところです。今回、中央図書館として、まず市内にある様々な関連施設とのネットワークの中心であるということ、それから、中央図書館を介し

事務局	<p>て、市外にある機能を取り入れていただくこと、そのような視点を盛り込んでいただけたらいいと思いました。</p> <p>ご意見ありがとうございました。本当に大事なことだと思っております。具体的にやっていくのは大変であり、文言の中にどのくらい反映できるか分かりませんが、課題としては承知しております。</p>
副会長	<p>資料No.1 24ページと回答1-2の関連です。基本方針を実現するための基盤整備の箇所、修正後には「専門的な知識や技術を持つ司書職員の配置やスキルアップを図る研修の継続的な実施の基盤整備が必要」と書かれています。最近、司書の専門性や求められる資質について考えることや聞かれることが多い。司書にとって必要な資質を考える上で、3つの基本方針に対応して、どのような能力が必要なのかを考えていくことが大事であると思います。この基本構想、それから、今後作成する基本計画の中で、このような機能を重視していくことになる、今までの司書に求められてきた能力、養成されてきた能力を超えるものが求められるようになって考えています。</p> <p>また、従来のレファレンスサービスも、今の生成AIの向上がものすごい勢いなので、私自身も従来であれば図書館のレファレンスサービスを利用した場合でも生成AIを使っています。そのような状況で、今後はAIがあるという前提で、どのようにサービスをデザインしていくのか。そのような能力が求められていこうと思っております。その部分を細かく書くことは、基本構想に求められていることではありませんが、例えば交流という点で言えば、司書よりも社会教育士（社会教育主事資格を得た者）の能力として掲げられている、コーディネート能力やファシリテーション能力、プレゼン能力が求められます。住民との間でどういうコミュニケーションを作っていくのかというところを重視した内容だと思っております。実はこういう能力は今回の基本構想で考えられているものとかかなり近いものがあると思います。それをどのようにこの基本構想の中におさめていくかということですが、新しい能力を確保していくことについては、スキルアップという概念にはおさまらないマインドの部分で、「今まで持っていなかった能力も積極的に学び続けていこう」「住民からいろいろ学んでいこう、学び続けていこう」という意欲です。いろいろ実験して失敗してもそこから学び取ろうといったマインドが求められている。スキルアップというマインドの部分の部分が落ちてしまうので、マインドの醸成+スキルアップが求められているのではないかと考えます。あるいは、スキル向上ではなくて、資質向上のような形にするのか。いろいろな書き方があると思いますが、その点は考えておいた方がいいと思います。マインドについても、社会教育士みたいな人が必要とか、AI関連の民間資格がある人とか、いろいろな考え方もあります。司書というの、司書だけでいいのか、司書とほかの資格という形に</p>

委員	<p>するか考えておいた方がいいのかなとも思います。今、別の町で新しい図書館と複合施設をつくる計画のお手伝いをしていますが、社会教育士については、市の人から、社会教育士が非常にイメージとして近いと思いますがどうでしょうかと聞かれたことがあり、私自身も社会教育主事の資格も持っていて、そういう仕事をしてきたことがあるので調べてみました。確かに現在、社会教育主事の育成過程も変わってきており、かなり近いものがあるのではと答えをしたことがありました。</p> <p>本当にそのとおりだと思います。やはり図書館が居場所になっていくことから、本を読む動機がない人に本を読むきっかけが生まれるみたいなことがあります。その居場所を作るときに社会教育士は非常に必要になってくる。いろいろな能力等があるということは、どの方もおっしゃっていると思います。そもそも居場所になるということは、6つの基本方針の一つ目にうたわれているので、全く問題ないと思いますが、これをどう実現していくかという基本計画のところ、本当に大事になってくると思います。ラウンジを作りますとか、ライブラリーガーデンにしていきますとか、そういう言葉をどのように具体的に言い続けていくかということも必要です。その時に、資格だけではなく、どんな人がいるべきか、こんな気持ちになれる人、本を読まない人の気持ちもわかってあげられる人、実は、私もあんまり本を読むのは得意ではないのですが、読むのが大好きです、のような感じでやっていければいいかなと思います。</p>
会長	<p>日本図書館協会の理事長とするとなかなか難しいです。そうでなくても司書として採用してもらえないという状況で、社会教育士的な能力を備えた人を職員として抱えていくとなると、ますます司書の道が狭くなりそうだと思います。司書養成課程の中には、そうした能力を養成する科目が組み込まれていないのでそこは難しい。</p>
委員	<p>学生時代に司書資格を取り、数年前に社会教育士の資格を取りました。図書館で働いていると必ず必要なもの、そして足りないものが見えてきます。私が司書資格を取った何十年も前は、司書は本だけに向き合うというイメージで、そういう方が今、ベテランとして現場に入っていらっしゃいます。そういう方たちにとって、自分たちの中で今の視点を変えるのはとても難しい。信じてきたものを否定されるようなところもあるかもしれませんので。私が一緒に仕事をして刺激を受けたのは、子どもたちの野外活動など、いろんなフィールドで活動されている方の視点というものでした。その視点が図書館に一番足りないと感じています。司書のスキルを上げることと、司書以外の方々と融合し、同じ学びをするという意味で、ここに記載されている司書職員の配置について、司書が図書館を守っていくというイメージで書かれている部分が一般の方の視</p>

	<p>野を広げる妨げになっていると思いますので、学びに関する様々な方と協力し合うような表現に少し手直しをすることにより、「みんな」という言葉が実現性を持ち、いろんなことで学びたい方が図書館に集まっていくという意味になるのかなというのが、私が社会教育士の資格を取る学びの中で一番感じたことでもありました。</p>
事務局	<p>司書が大事だと思っています。ご意見にありましたように「司書」なのか、あるいは「司書以外」なのか、分かりませんが、今まで私達が考えていたライブラリアンの能力以外のものがたくさん求められていると思います。コミュニケーションや発信していく力を、それからデザインの力など様々な能力が必要だと思っています。副会長ご指摘のように、単なる「スキルアップ」ではない言葉で付け加えられたらと思います。</p>
副会長	<p>社会教育士のところは掘り下げていただけて嬉しかったです。一つ付け加えていただきますと、司書や社会教育士等の資格を得る人を集めたとしても、その方たちを生かす組織運営がされていないと宝の持ち腐れになってしまうと思っています。そこで働いている人たちが学び続け、成長していくことを支援していく、サポートしていく、そしていろいろな実験を共有していく組織である必要があると思います。学習する組織とか、最近だと冒険する組織などの言い方をしていますが、いくら市民の皆さんにチャレンジしていただく施設ですと言っても、肝心の職員がいろいろなチャレンジができず、そんなことはやめておこうみたいな形になってしまうのでは元も子もありませんし、面白くないと思うので、組織の在り方まで含めて働く人たちの資質の向上ということを考えてもらえるといいと思います。</p>
会長	<p>中央図書館と地域館、学校図書館、県立図書館との協働に関して、どのような役割分担でいくか。佐久市の地域館をいくつか拝見しました。それぞれ自前でやってきたということがあり、保存機能まで持っているわけですが、中央図書館であまり利用頻度がないものは県立あるいは国立国会図書館のデジタル版に依存するなど、それぞれ図書館が役割分担の中でもっと身軽になって、いろいろなことができるようにしていくことも必要だと思っています。そこも、共同や全域サービスのところで書き加えていただけたらよろしいのではないかと思います。</p> <p>また、AIは、最近、すごい勢いで進化していて、図書館界でも多くの方がその動向を注視しています。今年、愛媛県松山市で行われる全国図書館大会は、AIを扱う分科会にほとんどの方が集中してしまうのではないかと思います。</p>

事務局	<p>そして、「市民が生きていく上で必要な情報リテラシー育成の手助けをします」という箇所ですが、リテラシーは能力なので自分の能力を育成という言い方ではなく、「リテラシー獲得」の言い方がよろしいのではないかと。</p> <p>リテラシーというときに涵養という言葉を使いますが、涵養という言葉が難しいと思い、「育成」という言葉しか思いつかなかったのですが、「獲得」です。ありがとうございます。</p>
委員	<p>佐久地域には新しい学校が出来ていて、学校の方向性を見てみると従来型の詰め込む教育は午前中に終えて、午後からは自分の興味があるところを探究していく探究学習の時間に充てるという動きがあるように思いますが、先生方はまだそれに対してどうしたらいいのか悩んでいる人がかなり多い。一方で、図書館は、あらゆる分野を網羅しているので、探究するときの一つの手がかりの場になる。子どもたちに対して、学校に対して何ができるかということをも常々考えていて、公共図書館が学校に出張するのは難しいので、先生方に向けて探究する方法の手助けをすることなのかなと、最近思っています。子どもに限ったことではないですが、「探究する」ことを一つの柱みたいにするというと思います。ちなみに厚木市では、新しい場所で「探求キャンパス」を作ろうということで、小さな場所ですが、あるコーナーをキャンパスと言って、そこからいろいろなところに飛べるようなものを作ろうということで、教育委員会と連結してやっています。</p>
委員 会長	<p>自動貸出機というのはどのようなものですか。</p> <p>本の中にICチップが装着されていて、同じくICチップの入った利用者カードと借りる本を機械の上に乗せれば、貸し出しが終わるといいます。だんだん進化してきていまして、通路を通れば、ウォークスルーで貸し出しが終わるところまで出てきています。例えば離婚の本などは借りづらいということがあるので、自動貸出方式の方が借りやすいということです。また、他の仕事に職員が回れるということで、標準装備品になりつつあります。</p>
委員	<p>新設の学校では、本がなくて、親はみんな心配になりましたが、学校の先生が工夫して、図書館にみんなで行って、本を借りて、学級文庫のような形で借りてきた本をクラスに置いて、みんなで読み合うということをしています。図書館は、こんなふうにも使うこともできるのか、先生はよく考えて頑張っているなと思いました。それを見ていたときに、学校との連携という意味で、学校が図書館に対してどういうニーズを持っているかをもう少し聞きながら次のステップの基本計画に行けたらいいのかなと思いました。学校の先生を含めて高校生や中学生が実際どう思っているかを把握するために、授業の一環でアンケートを取ってもらったりワークショップをやったり、学生向けのパブリックコメントをやってみたりしたらどうでしょうか。次の世代の子たちの生の声を、も</p>

事務局	<p>う少し聞いて、思い込みがないように、基本計画に繋げていけるといいと思いました。ちなみに学生に対して何かワークショップとは実施しているのでしょうか。</p> <p>実施していません。YAのコーナーが浅科図書館にあるだけですので、YAのコーナーをこれから作っていきたいと考えています。そのときには学生さんに参加してもらえるといいなと思っておりますが、まだこれからです。</p>
委員	<p>若い人の意見も取り入れていただけると、先程の交通の問題なども、学生がそのように考えているなら、意外と予算かけずに、交通の問題もこうすれば学生が来てくれるのではないかのようないいアイデアが若い人の方から出るかもしれない。こうしてくれれば（図書館に）行きますよ、駅のそばでなくてもいいですよという意見が、学生たちの間から出てくると、それは自分たちで考えたことなので、実現してあげれば5年後10年後、図書館が出来た時にそれが生きてくるのかなと思いました。今回の構想の中身というよりは、次に繋げるために、考えていけたらいいと思います。</p>
会長	<p>文部科学省の調査では、高校生の不読率は、非常に高い水準のまま推移しています。もっと本読むきっかけになるようなことはないでしょうか。</p>
委員	<p>佐久の新校に関することについてですが、テーマが探究的な学びや地域との共創ということで、図面が描かれています。あと5年程で新校が開校しますが、地域連携室が最初から組み込まれており、その隣にメディアセンターを置くということは、絵がどんなに変わってもずっと貫いています。その地域連携は、キーワードにしながらも、おそらく具体的なイメージがまだできない状態であると思いますので、そこが佐久市の図書館が一番絡みやすいところだと思います。先生方や現場が一番ついていけないところをウィンウィンの形で埋めていくといいのではないのでしょうか。その繋ぎのコーディネートをするのが学校司書だと思います。探究という言葉が出ている新校であるというところで、教育長をはじめ、いろんなところからもっと踏み込んでいただくと、現場はもっと数年後のイメージができるのかなと。そして、やはり学びの接続というキーワードはすごく大事で、小学校でこんな学び、中学校でこんなことをしていて、高校でいきなりそれが途絶えてしまう。社会に出たらそれが全部役に立たないとなるところを支えるのが図書館だと思っています。東信のある学校は中学校までしかないのです。そこで学んだ子どもたちが高校に行くと、それまでの学び方と全く違うところに放り出されてしまうという現実があります。そういう子たちが、面白かった学びはどこ行ったのとなってしまうぐらい県立高校は、まだ新しい学びに対応しきれていないのが、現実としてあると思います。お互いの弱いところを、ちょうど佐久新校ができるタイミングで、この建</p>

教育長

設計画と同じ足並みを揃えていくというところで入り込んでいければと思いますので野沢北高南高にもお話が届くといいなと思っています。

その懇話会の座長をやっておりますので、こういう意見はとてもありがたいです。地域連携室とメディアセンターとのセットでやっておりますし、おそらく、皆さん方が想像しているよりも、今、野沢北高校の探究は相当進んでいます。不思議に思ったことを調べてみようぐらいの段階から、さらに自分でテーマを見つけて企業と連携して、いろいろなところへ出かけて行きます。そして、失敗して学ぶ。そこに重点を置いています。私も昔、教員で、子どもたちに良かれと思い失敗しないようにやってきましたが、今はテーマとして、「教える」から「学び」へ。「学びの主体を子どもに移そう。」子どもも失敗するのが当たり前で、そこから学べばいいと。探究の本質は何かというときに、いろんなことを先生方と議論しましたが、今、定着しているのは、学び方を学ぶのが探究ということです。一定の結論を得て模造紙に書いて発表する。そこで完結していくのが私達の時代でしたが、それをフィードバックします。例えば浅間中学校では、地域の人に来てもらって、地域の人とこれをどうしたらいいみたいなことを聞いたり、地域の人から示唆を得たりというようなフィードバックも含めた探究を目指しています。そこで図書館の果たす役割があり、学校からどんなことを図書館に望んでいるのかも今後、話をしていきたいと思っています。

社会教育士のことも興味を持って聞きました。特にAIや新しいことを学んでいくマインドを育てなければいけないことについて、教員をイメージしました。全く同じです。先生方もそのマインドを育てるにはどうしたらいいかと考え、先生方が個人で右往左往しています。私どもも市の施策として探究を進めてく中で、そのマインドあるいはエージェンシーみたいな言い方をしていますが、図書館と違った次元での連携ということが模索されていくかなと思います。AIの事も学校現場では大騒ぎです。先生方も個人的には使っておりますが、無料で使えるものを整理することができないため、先生たちがそのAIの進歩に驚いています。今までの授業のどこに入れるかとか、AIを使いこなせる頭になろうと言っても仕方ないので、学校との連携ということ、今後、本当に進めていく必要があると思っています。

もう1点、中高の連携、小中の連携も全くおっしゃるとおりです。佐久市の現状を言うと小学校が様々な取り組みをしています。佐久城山小学校は、「私の時間」というのを設けて週に2回、子どもたちが好きなことをやっています。県の研究大会の会場校になって、全県から先生方が来て学んでいます。ただ、先ほどのお話のように、公立の学校に来たら違う状況ということがいろいろなところで起きています。それがすぐ解消というわけではなく、探究の芽はまだ

	<p>行き渡っていないという状況ではありますが、数年後には全ての高校、全ての中学校、小学校で、そういう形の授業に取り組む予定です。そういう先生方のトライ&エラー（トライ&ラーン）ということをも市教育委員会としても精一杯支援する形でやっています。</p>
委員	<p>今のお話を伺って、とても大切なマインドがこの場で共有されているので、それは基本方針に生かしてほしいと思いました。市民の方がこれを受け取ったときに、学校の先生はそのお立場で、他にもいろんな立場の方が自分事としてこれからに希望を持てると感じていただけるようなものであってほしいと強く思いました。今のお話は、基本方針3でしょうか。図書館は生きる力を育む場ですとか、子どもたちが自分を育てていくために必要な力とか、市民の情報リテラシーとか、今のお話がかかなり書き込まれていると思います。この中に探究マインドや、学校との連携などのキーワードが入ることによって、表現されるのではないかと思います。</p>
会長	<p>今、デジとしよ信州は学校ではアクセスできないのでしょうか。</p>
委員	<p>学校からもアクセスできます。各市町村の教育委員会や学校のご意向に沿って、学校単位やクラス単位でまとめてIDを発行したり、先生方にお試し用のデモIDを発行したりしていますので、だんだん進んできているところです。</p>
会長	<p>今、デジタル教科書を巡っては是非論がいろいろあります。紙の本で学ばなければと、デジタル教科書に反対する人もいます。デジタルの参考書に関して言えば、クラス全員が同じ参考書を一遍に見られるのはデジタルしかないので、デジとしよ信州の利用者を増やす意味からも、学校にうまく入っていけるとよろしいでしょうね。</p>
委員	<p>基本的には、一つ一つのコンテンツを一度に1人しか使えないという形から、学校での利用を考えて、同時アクセスができるパッケージも導入しています。読み物系は朝の読書時間に使われているようですし、調べもの系のパッケージを出していただく出版社も増えておりますので、いろんな形で学校の現場で使っていただけるものになってきていると思います。</p>
会長	<p>事務局には今まで出ました皆様のご意見をくみ取って、必要な部分に加筆や新しい言葉を書き加えていただき、まとめていただければと思います。</p>